

## 2. 地下空間浸水時避難安全検証法試行案を適用した検討事例

「地下空間における浸水対策ガイドライン」において分類しているそれぞれの地下空間についてモデル施設を設定し、地下空間浸水時避難安全検証法試行案を適用してみることにする。ここで、「5．不特定又は多数の者が利用する地下空間」の事例として、小規模商業施設ビルと大規模商業施設ビルを、「6．特定少数の者が利用する地下空間」の事例として小規模個人ビルをモデル施設として設定する。

検討では、地下空間の浸水状況を想定し、避難行動困難水深に達するまでの時間と地上へ脱出するまでの避難行動時間とを算出し、それぞれを比較することで避難に対する安全性を検証することとした。

各タイプの地下施設の検討結果を「2.3 検討結果一覧」に示す。また、これら検討手順を「2.4 地下空間浸水時避難安全検証法試行案の計算手順」に示す。

### 2.1 検討対象施設の概要

種 別	床面積	外部階段	内部階段	管理者	利用者
小規模商業施設ビル	470m <sup>2</sup>	2箇所 総幅：3m	なし	無	不特定少数
大規模商業施設ビル	8,400m <sup>2</sup>	2箇所 総幅：10m	11箇所 総幅：24.8m	有	不特定多数
小規模個人ビル	31.8m <sup>2</sup>	1箇所 総幅：1m	なし	無	特定少数

#### (1) 小規模商業施設ビル

共有部面積 82m<sup>2</sup>  
 店舗面積 266m<sup>2</sup>  
 機電室面積 122m<sup>2</sup>



#### (2) 大規模商業施設ビル

売場面積 7,400m<sup>2</sup>  
 事務所面積 1,000m<sup>2</sup>



#### (3) 個人ビル

床面積 25.65m<sup>2</sup>  
 階段部面積 6.15m<sup>2</sup>

